

令和4年産 コメ通信

第5号（令和4年6月27日）

【発行】
北秋田地域振興局農林部農業振興普及課
（電話：0186-62-1835）

茎数少ない！生育に応じた管理を！

1 気象経過と生育状況

【気象経過及び1か月予報】

5月下旬以降、降水量は平年より多く、日照時間は少ない～平年並でした。また、6月上中旬の平均気温は平年並からかなり低く推移しました（図1）。

仙台管区气象台によると、東北北部は6月15日頃（平年差±0）に梅雨入りしたとみられています。

6月23日に仙台管区气象台が発表した、東北地方の向こう1か月の予報は、気温は高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並となる見込みです。今後もしもち病の発生等に注意して、適切なほ場管理を行ってください。

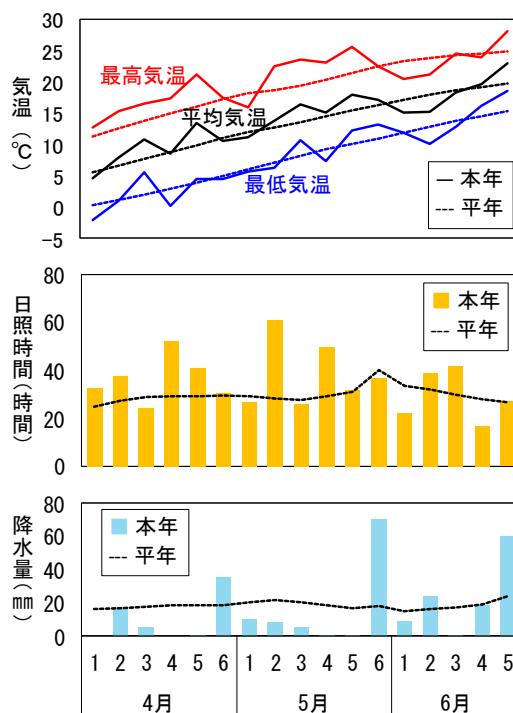


図1 気象経過図（アメダス鷹巣）

【生育状況（定点調査結果）】

6月24日現在の生育（あきたこまち：9地点平均）は、草丈は平年よりかなり短く、茎数は平年よりかなり少なく、葉色は平年より濃くなっています。葉数は平年並となっています。

ほ場間差もありますが、全体に生育量が小さい状況です。今後も水管理を適切に行い、茎数増加に努めましょう。

表1 定点調査結果（6月24日）

	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)	葉色
本年	34.8	345	8.9	45.3
平年	39.8	505	9.0	43.8
前年	39.8	471	9.2	44.3
平年比較	87%	68%	-0.1	103%
前年比較	87%	73%	-0.3	102%

※平年は過去10か年の平均値を示す。

※葉色はSPAD-502で測定した。

2 今後の水管理

【中干しによる弱勢茎の抑制】

※茎数が少ない場合は強い中干しを避けてください。

- 目標穂数と同数の茎数（あきたこまちは70株植で1株あたり20本程度、60株植では1株あたり25本程度）を確保したら、直ちに中干しに入りましょう。
- 中干し期間は7～10日間程度とし、田面に亀裂が1～2cm入り軽く足跡のつく程度とします。終了後は間断かん水により土壌を酸化的に保ち、根の伸長を促進します。
- カドミウム吸収抑制対策として、湛水管理を行います。長期間の湛水管理に備え、中干しはしっかりと行うようにしてください。

3 主要病害虫の防除対策

※飼料用米も主食用米と同様に、病害虫防除を行ってください。

【いもち病】

- 補植用余り苗をまだ処分していない場合は、それが強力な伝染源となります。水田から畦畔に移動するだけでは防除対策になりませんので、泥の中に埋めるなどして、完全に処分してください。
- 今年度はこれまで北秋田管内における感染好適日は確認されていませんが、感染した場合は、1週間程度で発病します。病斑を発見したら直ちに予防剤と治療剤の混合剤（ブラシン、ノンブラス等）を茎葉散布してください。また、必要に応じてビーム剤の追加散布を行ってください。

◆ラブサイド剤の使用回数に注意！

ラブサイド剤（ブラシン剤等含む）の成分である「フサライド」の総使用回数は3回以内となっています。農薬は使用する度に帳簿に記載し、総使用回数を超えないよう計画的に使用しましょう。

【斑点米カメムシ類】

- 斑点米カメムシ類は、休耕田や畦畔等のイネ科の雑草で増殖し、これらが水田内に侵入して加害します。昨年、斑点米が多かったほ場では、今年も多く発生することが予想されます。
- 出穂の10～15日前までに、畦畔や休耕田、雑草地を対象に地域でまとまって草刈りを徹底して行い、斑点米カメムシ類の生息地における密度低下に努めます。
- アカスジカスミカメは、水田内にカヤツリグサ科（ホタルイ類等）やノビエが多発していると、その雑草の穂に産卵し増殖します。除草剤を適切に使用し、水田内の雑草防除を徹底しましょう。

4 中・後期除草剤の適正な使用

- 雑草が繁茂しているほ場が確認されています。中・後期除草剤の使用にあたっては、雑草の草種や生育程度に応じて適切な剤を選択してください。散布時期や散布時の水管理方法は剤によって異なるので、ラベルをよく読んで適正に使用してください。

問い合わせはJAまたは農業振興普及課まで ～次回発行は7月上旬頃～